

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 5 さいたま市立神田小学校

令和5年 8月 29日発行 TEL (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

習い性となる

校長 米玉利 優子

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が神田小学校に生命を吹き込んでくれました。昨日、お子様が「早く学校に行きたい。」「明日は友達に会える。嬉しいな。」と言って、ほっとした保護者もいらっしやれば、「ああ、学校…面倒くさいな。」と思っている様子に少し心配になった方もいらしたのではないのでしょうか。でも、安心なさってください。面倒くさいと感じることは当たり前のことです。自分のやりたいことを自分のペースでできた夏休みに比べると、学校は苦手なこともやらなくてはいけない、自分の思うように時間を使えない等、小さなストレスを感じて当然だからです。

1つは、険しく大変な道、もう1つは平坦で楽な道。どちらを選ぶかと問われれば、平坦で楽な道を選ぶと答えることは、人として、決して不自然なことではありません。しかし、いつでも、楽な安易な道を選ぶことを重ねていくとどうなるのでしょうか。

「習い性となる」という言葉を知っていますか。日々の生活でとっている態度、繰り返している生き方は、意図的であれ、無意識であれ、やがて自分の身について第二の天性になっていくものであると言われます。若い頃から苦手なことに挑戦し、労をいとわず動ける人は、年を重ねても、やはり労をいとわず歩めますが、楽な道ばかり求めた人は、いくつになっても楽な道を求め続けます。人間、身についた習性はそう簡単には変わらないものです。」高校生の頃、部活動の練習に手を抜いていた私たちに、顧問の先生が静かに語ってくれた言葉を今もはっきりと覚えています。楽なことばかりを求めて、それで日々が過ぎていけば良いですが、苦楽共に味わえるのが人生です。困難にひるまず、安易に墮さず、人生を強くたくましく生き抜くことのできる力を子どもの頃から身につけられる場所。子どもにとって学校は、自分1人では決してやらないことに挑戦し、様々なことに会いながら、悩み、苦しみ、喜び、笑い…「習い性となる」ための礎を毎日、少しずつ築き上げていく場所なのではないのでしょうか。

「私たちにもできることがあります。自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。友だちのよいところを見つけること。みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。…」2023年8月6日、広島原爆の日、凜とした姿で熱く語る広島県の小学校6年生が「平和の誓い」で語った言葉の一節です。

「神田小学校に関わる子どもたち、保護者の皆様、地域の方々、教職員…みんなの笑顔のために自分の力を使う」には、私はどんな行動をし、どのように生きていけばよいのかを考え、その行動が習い性となるように精進したいと思います。大切な私の教え子たちに胸を張れる人間に近づけるように、学校が人間教育の場であり続けられるように…

明日の朝、お子様が起きるのが遅くても、準備に時間がかかっても、あたたかく見守り声をかけてあげてください。そして、お子様の様子をそっと担任にお知らせください。寄り添い歩むことをお約束いたします。保護者の皆様、地域の皆様には、今学期も子どもたちが険しい道を選んだ時こそ称賛し、強くしなやかな心をもつ人間育成にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。